

国際部会

「共に生きる世界をつくろう神戸から」に参加して

KOBE 国際交流フェア 2007年

国8 - 国 竹内 義治

本年も(財)神戸国際協力交流センター、神戸国際交流フェア実行委員会の共催による KOBE 国際交流フェアが3月17日(土)は神戸国際交流協会会議室で、3月18日(日)は神戸ハーバランドのデュオドームとスペースシアターで開催されました。本フェアは震災復興2周年を記念して始められ、本年で11回目を迎えました。今年のテーマは『共に生きる世界をつくろう！神戸から』ですが、年々参加団体も増え、国際色を強め過去最高の79団体による多彩なフェアでした。

との印象を強く感じるフェアでした。わが国際部会も今回初めて「リレートーク」に参加し『再び学んで他のために、多文化共生を目指して』をテーマにグループわの紹介、国際部会の活動状況を国際部会全体活動と常設小グループによる各種支援活動を紹介しました。リレートーク後の交流パーティーには国際部会より7名が参加し、各種団体の方々との交流を図ると共に、活動の様子を学ぶことが出来ました。

デュオドームでは昨年に引続き

「LOVE KOBE

LOVE PEOPLE」

のポスターに加え、リレートークで紹介した車椅子テニス大会日本伝統文化講座、ハイキング・スポーツ交流会、外国人留学生料理教室、合唱団交流会等の



国際交流フェアで披露された民族舞踊と民族衣装ファッション

17日の神戸国際交流協会会議室で開かれた「リレートーク」には16団体が参加。各団体とも「語りあおう共に生きる世界を」をテーマに熱っぽく語りかけ、1団体8分の短時間での発表であったが、皆さんの熱意が強く伝わりました。また、16団体中5団体がシルバーカレッジの卒業生からの発表でありました。皆さん色々な団体で活躍されている様子に驚きを感じると同時に、シルバーカレッジここにありとの感を持った次第です。

18日のデュオドームでは各団体ブースでの活動状況の紹介展示、世界の民族衣装のファッションショー。スペースシアターでは世界の料理と民芸品の販売に加え、ステージでは各国民族舞踊、演奏、コーラス、日本伝統芸術など国際色豊かなパフォーマンスが繰り広げられ、「共に生きる世界」

活動状況と常設小グループの英語点字 PHD 支援、土曜学校における学習支援、英語劇、ミャンマー支援等の写真展示、ブースに来られた人にはシルバーカレッジとグループわの概要冊子(和文、英文)を配布しました。

今回は市からの助成も無く、参加団体のボランティアによる手作りとなったが、活気のあるフェアになり、フェアを通じて、他の参加伝統芸術など国際色豊かなパフォーマンスが繰り広げられ、「共に生きる世界」との印象を強く感じるフェアでした。

より学ぶべき事が多いことを知りました。今後ともこのような催しを通じて友好の輪を広げると共に、連携協力して活動を進め、国際部会員の若さを保ち(活性化)ながら、多文化共生を目指した社会作りに役立ちたいとの意を強くした次第です。

外国人の子供とコマ回し

マリスタ国際学校で昔あそび

国6 国 黒田 宏

マリスタ(ブラザー)国際学校で「昔遊び」を始めて早3年が経つ。本当は4年目であるが、最初の年は先方の止むを得ない都合で急遽取り止めとなった。この学校では毎年2月に「Japan Culture Week」として生徒が日本の伝統的な文化を鑑賞したり体験する機会を与えられており、その一つに我々が子供の頃に楽しんだ「昔遊び」を加えて貰うことになった。

当初は国際部会のメンバーが通訳をする形で始めたが、我々もワイワイ・ガヤガヤと一緒に楽しんでいる状況である。一口に遊びと言っても子どもたちにとって1時間足らずでいるんな遊びを体験してできるようになるのは難しい。

なかでも彼らにとってコマ回しは簡単ではない。制限時間の半分以上を費やし何回も失敗を繰返してやっとコマが回ったときのうれしそうな顔は忘れられない。遊びの種類は、コマ・ブンブンゴマ・紙飛行機・竹馬・竹トンボ・ケン玉・折紙等々。簡単そうでなかなか出来ないのがブンブンゴマで、引張ったり緩めたりするコツが掴めず苦労していた。「I give you.」と言うと大事そうに仕舞い込んだ。

一昨年のカナディアン・アカデミーでは、家に持ち帰って練習して出来るようになったと言う報告をしてくれた生徒がいた。竹馬が面白い。我々は足を乗せる部分を前後にして足の裏全体を乗せていたが、先生たち(外国人)は、それを左右(横)に開き土踏まずあたりを台に直角に乗せて歩いていた。

何時もの事ながら、何か役に立てばとボランティア活動に参加するが終わってみると逆にこちらが元気を貰って帰ってくるのがしばしばで、私にとっては大きな元気の源となっている。

